

明けましておめでとうございます。

日本包装管理士会
副会長 道明 誠

2025年の幕開けにあたり、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。昨年の総会にて副会長を拝命した道明 誠（みちあき まこと）です。私は、本誌「ippニュース」の編集委員も務めております。この度、138号の巻頭言の執筆にあたり、過去の「ippニュース」を振り返ってみました。2013年8月発刊の「[ippニュース115号](#)」では、JPIの古屋専務理事が私どもIPPの定時総会のご挨拶の中で、日本包装技術協会の設立当時、経営における「事業の柱」を築くため、2年間の協議の結果、「包装管理士講座」と「東京パック」という二つの柱を打ち立てたことを強調されていました。およそ60年も前から続くこれらの取り組みが、今日も多くの包装管理士を輩出していることに、深く感銘を受けました。

私たち日本包装管理士会も、より魅力的で活力ある組織を目指して、一昨年から再構築委員会を立ち上げ、議論を重ねています。会員同士が協力し、新たなアイデアや取り組みを生み出し、さらなる発展を遂げることができるよう模索中です。

ここで、スタンフォード大学のマーク・グラノベッター博士が提唱した「The Strength of Weak Ties（[弱いつながりの強さ](#)）」について触れたいと思います。彼は、親しい関係ではない「弱いつながり」が新しい情報や機会をもたらすことが多いと指摘しました。普段あまり接点のない会員同士が交流することで、思わぬアイデアや連携が生まれることがあります。こうした「弱いつながり」を大切に、会の可能性を広げていくことが重要であると認識しています。

去年は、IPP活動を通じて多くの方々と交流の機会を得ました。例えば、食品ロスジャーナリストの井出留美先生から学んだ包装の役割、(株)大林組の山田様による「女性の活躍」のお話、アスカカンパニー(株)小倉様、前川様による「協働型ロボットの取り組み」、「環境配慮型の化粧品容器」の取り組みなど、これらの受講を通じてリスキングの重要性と人脈の大切さを再認識しました。皆さまもぜひセミナーや見学会、交流会にご参加いただき、新しい出会いや新発見を共有していただければと感じています。

昨今、環境問題やデジタル化の進展により、業界を取り巻く環境は大きく変化しています。これらの変化を私たちは成長の機会として捉え、知識とネットワークを広げていくことがますます重要になっています。

「[ippニュース115号](#)」の表紙にある古屋専務理事の「新しい挑戦に期待する」との言葉を心に留め、2025年も皆さまの「協力する力」を結集し、会員全員が真に「利」を得られる会を目指して共に歩んでいきましょう。本年も、日本包装管理士会が皆さまにとって意義深い交流と協力の場となるよう、努めてまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす
日本包装管理士会 会報
No.138

ipp
news

《INDEX》

日本包装管理士会 新副会長挨拶	1
日本包装管理士会選定 2024年包装界・10大ニュース.....	3
本部だより	7
支部だより	11

ipp news
2025年1月24日発行
編集人/道明 誠
発行/日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

2025年 包装界合同新年会 の報告



2025年 包装界合同新年会 開催報告

2025年1月8日（水）、公益社団法人日本包装技術協会主催による「2025年包装界合同新年会」が、東京會館にて盛大に開催されました。本会は包装業界に携わる関係者が一堂に会し、共に新たな年の幕開けを祝う場として長年の伝統を誇っています。今回は丸の内の東京會館にて大規模な開催となり、約500名もの参加者が集い、盛況のうちに終えることができました。

開会の挨拶では、公益社団法人日本包装技術協会 大塚一男会長が登場され、新年の抱負とともに、業界全体が連携し未来を切り拓く重要性を強調されました。また、来賓として経済産業省 製造産業局 素材産業課 課長補佐の西川康文氏が招かれ、業界の発展に向けた激励の言葉が述べられました。

懇親会では、多くの業界関係者が和やかな雰囲気の中で交流を深め、現場の課題や成功事例について活発な意見交換が行われました。こうした交流は、新たなアイデアの創出や業界全体の結束力強化に寄与するものと期待されます。また、東京會館という伝統ある会場を舞台に、窓越しにはお堀の清掃風景も見ることができ、日常と非日常が交錯する印象深い光景が参加者の話題を誘いました。このような場での新たな気付きや出会いが、業界発展の原動力となることが期待されます。

2025年が包装業界にとって飛躍と革新の年となるよう願いを込めて、新たな挑戦が続けられることを祈念いたします。



日本包装管理士会選定 「2024年包装界・ 10大ニュース」

2024年を振り返ると、株価がバブル期の最高値を34年ぶりに更新し、日本経済も活気を戻した。国内物価は米価が昨年の約2倍になるなどインフレ状況を呈している。その中で包装技術の開発が推進され、物流の2024年問題も果敢に対応していることが包装関連のニュースから垣間見られた。

1. 国内各企業が、水平リサイクル、剥離・分離等の技術開発により、資源の再利用に注力中

資源循環の潮流の下、K社等6社が企業連携により、使用済み液体洗剤用詰め替えパックの「水平リサイクル技術」を具現化。JPIの第48回木下賞を受賞した。また「剥離技術」に関し、D社の「易剥離紙容器紙トレイ」は紙とフィルムを分離・回収し、提供する資源循環システムを構築。G社は、異種積層フィルムを分離する技術を開発。樹脂を回収・再利用している(この技術は経済産業省の賞を受賞)。各企業による、資源循環への積極的な取り組みが続いている。

2. 物流の2024年問題

2024年4月、トラックドライバーの時間外労働960時間上限と改正改善基準告示が適用され、労働時間短縮に伴う輸送能力不足が深刻化する。2030年には34.1%の輸送能力不足が予測され、包装業界でも労働環境の改善やDX化が急務の課題となっている。こうした中、大手飲料メーカーS社は、1ℓペットボトルを角型デザインに改良し、トラック1パレットあたりの輸送効率を従来比約1割向上。これにより、労働時間規制による物流課題に対応しながら、コスト削減と効率化を実現し注目された。

3. 企業間や自治体等の横断的な協働作業が進展。 更なるリサイクルの広がり等を期待

K社とA社は、CLOMA活動の一環として、マヨネーズボトルの資源循環「マヨネーズボトルに戻そう!!プロジェクト」を開始する。またAM社も参加し、全体統括役を担う。この協働プロジェクトには、横断的に、CLOMA参画企業(リサイクル会社他)や自治体が参加。使用済みで、洗浄・乾燥したマヨネーズボトルを店頭回収し、水平リサイクル実現の技術検証を行う。両社は、リサイクルに関する社会の意識を変化や更なる他業界への広がり事を期待している。

4. 海外包装規制の動き

2024年、包装界では国際規制が進展。欧州議会は11月に「包装および包装廃棄物規則(PPWR)」を採択した。同規則は包装廃棄物の削減、包装資材のリサイクル促進等を義務付けるもの。米国では一部の州でEPR(拡大生産者責任)の関連法が発効され、他州でも審議が行われている。また、国連環境計画は海洋プラスチック汚染を防ぐ国際条約締結に向けた協議を進めている。これらの規制に対応するため、日本政府、企業、関連団体による包括的対応が求められている。

5. 進む植物由来プラスチックの実用化

国内初、サトウキビ由来のポリエチレンをコートした飲料用アルミ付き紙容器が採用される。同紙容器は再生可能資源比率を高め、CO₂の排出も削減していて、国際的な認証機関CarbonTrustの認証を受けている。認証ラベルの表示も国内初の事例。また、コペンハーゲン大

学の研究チームがオオムギ由来の100%生分解性樹脂「オオムギプラスチック」を発明。微生物により自然に分解され、環境汚染が無く、食品包装への活用が期待されている。トレイ・ボトル・バッグにも利用可能である。

6. 食品による健康被害の防止強化のため、食品表示基準の一部改正

内閣府消費者庁は令和6年8月23日に食品表示基準の一部改正を公表した。紅麹関連製品の事案を受け、機能性表示食品の信頼性向上を目的としている。改正では、新たな知見の報告義務や健康被害の情報収集、製造・品質管理の遵守、表示方法の見直しが強化された。施行は令和6年9月1日からで、包装表示の見直しに関する経過措置は令和8年8月31日までとされる。

7. 医薬品包装用高防湿シートの開発

SU社とSA社は、医薬品包装のPTPフィルム用として新たな防湿シートを共同開発した。従来製品に比べ、樹脂使用量を約22%、温室効果ガス排出量を約24%削減している。ポリ塩化ビニル（PVC）にフッ素樹脂フィルムを複合し、防湿性、透明性、成形加工性に優れている。また、錠剤の取り出しやすさも向上しており、環境負荷の低減と医薬品包装の利便性を両立する製品として評価されている。

8. レアメタル不要の新PET製造技術を開発

U社は、金属を使用しない触媒を使用したポリエステル重合技術を開発した。PETに代表されるポリエステルは、触媒として、アンチモン、ゲルマニウム、アルミニウム、チタンといった金属触媒を使用していたが、酸性の有機化合物を使用した、ポリエステルの重合技術を開発した。アンチモンやゲルマニウム等のレアメタル触媒を置き換えることで、資源保護と製造コスト削減を可能にした。色目は従来と変わらず、金属によるくすみもなく透明性に優れ、熔融加工時の分子量は従来の金属触媒品と同等でほぼ低下しない。

9. 段ボール製緩衝材の使用増加

脱プラスチックの動きから、緩衝材は発泡スチロールから段ボールへの切り替えが顕著となっている。切り替えの原動力は、設計手法による緩衝構造や段ボール品質の安定によるが、段ボールはリサイクルが容易で、環境負荷が少ない特徴も大きな要因である。物流時の繰り返し衝撃への対応も、段成形を含めた品質安定・性能向上と緩衝材構造設計での対応が研究され実現に向かっている。このことは、段ボール緩衝材による包装が、日本パッケージングコンテストにおいて2年連続でジャパンスター賞を受賞していることから推察される。

10. 2024東京国際包装展開催、盛況裡に閉幕

2024年10月23日（水）～25日（金）、東京ビッグサイト展示場東1～6ホールを使用して、「2024東京国際包装展」が開催されIPPも出展した。同展は、「世界が驚く包装イノベーションを！～TOKYO PACKから世界へ～」をテーマに、出展社数725社、2,313小間で開催され、来場登録者数は70,712人（内、海外の登録者は6,045人）となった。同時にジャパンパッケージングコンテスト2024入賞作品の展示や2024木下賞受賞作品の展示があり、盛況裡に閉幕した。

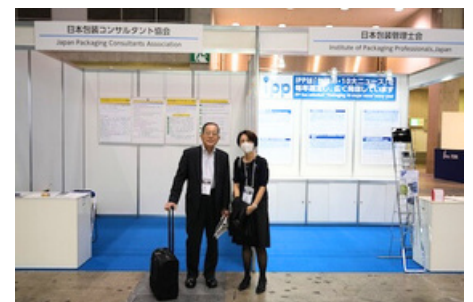
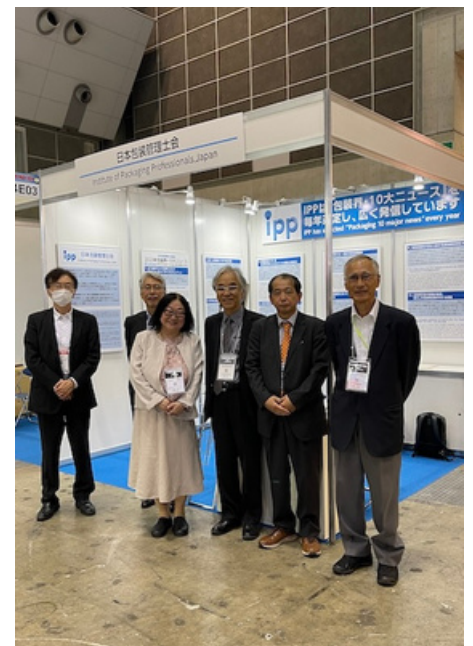
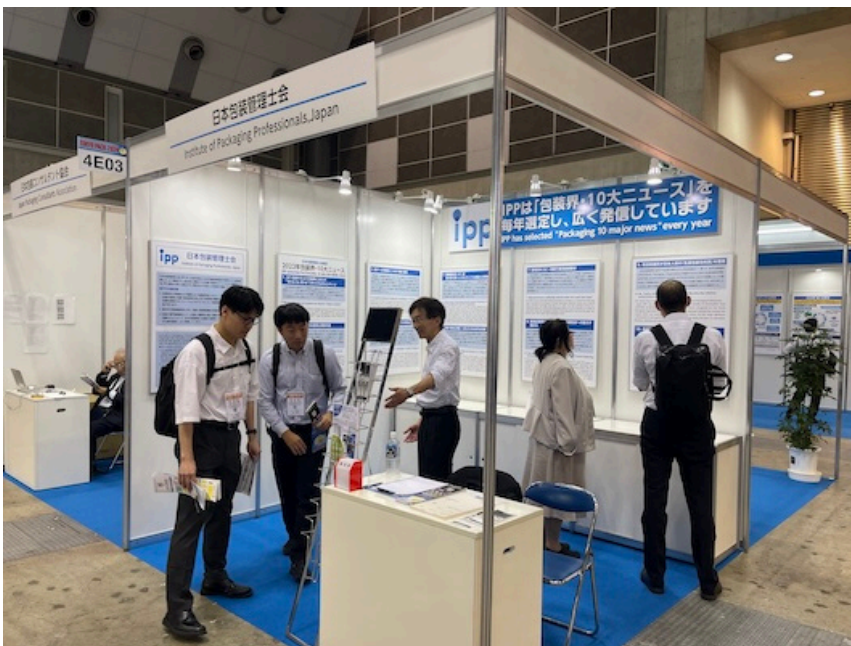


TOKYO PACK 2024 IPP出展と セミナーの報告

2024年10月23日から25日まで東京ビッグサイトで開催された「TOKYO PACK 2024」において、日本包装管理士会（IPP）は、多くの来場者と有意義な交流の場を持ちました。「世界が驚く包装イノベーションを！～TOKYO PACKから世界へ～」をテーマに掲げた本展示会では、包装資材や包装機械だけでなく、環境に配慮した技術やサステナビリティに関する取り組みも数多く展示されました。

日本包装管理士会（IPP）は、2023年の包装業界で注目されたトピックをまとめた「包装界・10大ニュース」のポスター展示を行いました。この取り組みは1968年の開始以来、50年以上にわたり継続されており、業界の重要な情報源として会員や関係者に活用されています。今回の展示では、来場者が業界の現状や課題、そしてイノベーションへの期待を再確認する機会となりました。

IPP展示ブースにお越しくくださった方々からは、「WEBに掲載された10大ニュースのURLを教えてください」という要望や、「今年話題である『PPWR』について詳しく教えてください」といった質問もいただきました。隣接する日本包装コンサルタント協会の住本先生をご紹介し、「PPWR」についてのアドバイスを得る一幕もありました。また、外国の方も数多く訪れ、英語が話せるスタッフが英語訳されたポスターをご覧いただきながら、会の紹介を行い、国際交流の一助となりました。





鈴木 雅彦氏



古井 真夫氏



山田 孝志氏



井上 伸也氏

さらに、TOKYO PACK 2024ではテクニカルセミナーも開催され、日本包装管理士会（IPP）からは4名の専門家が各分野における詳細な知見と実務的なアドバイスを提供しました。具体的な内容は以下の通りです。

- 鈴木雅彦氏：「包装で改善する2024年問題」対応策を解説し、JIS Z 0200を活用した試験計画書作成がハザード特定と包装設計に有効であると指摘。物流効率や包装最適化がコスト削減や労働力不足解消に繋がると強調しました。
- 古井真夫氏：「環境問題対応としての包装設計の在り方（発泡スチロールの場合）」家電製品の緩衝材を例に包装設計の基本、手順、評価試験を解説し、環境問題を考慮した包装材料の選定基準を提示。また、発泡スチロール協会（JEPSA）の環境配慮活動や3R推進の実績を紹介し、発泡材の環境対応貢献度を紹介しました。
- 山田孝志氏：「医薬品のサプライチェーンマネジメントについて-医薬品の適正流通(GDP)ガイドラインの要点-」 温度マッピングやモニタリング機器の管理が医薬品の安全性確保に重要であると述べ、医薬品サプライチェーン全体の品質管理手法を詳述しました。
- 井上伸也氏：「段ボール包装の設計と最近動向」段ボールの魅力としてリサイクルの容易さや軽量性、高品質な印刷を挙げ、アクセシブルデザインや環境配慮、安全性向上の重要性を強調。軽量化や品質向上の技術進歩にも触れました。

これらのセミナーを通じて、参加者の皆様には業界の取り組みや課題に対する理解が深まり、講演後には名刺交換の場が設けられ、直接意見交換ができる貴重な機会となりました。

今後も当会は、こうした展示やセミナーを通じて、会員や業界全体の知識向上と交流の機会を提供し、包装業界のさらなる発展に貢献してまいります。引き続き皆様のご支援とご参加をお願い申し上げます。



本部だより

IPP本部主催 歓迎WEBセミナー実施報告

道明 誠（23期）

2024年11月6日（水）、第59期 包装管理士講座合格者向けWEBセミナーを開催しました。セミナーは、池袋のアットビジネスセンター別館405室よりWeb方式で配信し、第59期 包装管理士講座 合格者の皆様にご参加いただきました。冒頭、古平会長よりお祝いと歓迎のご挨拶をいただき、続いて道明が日本包装管理士会の活動や「包装界・10大ニュース」について説明、当会の使命を共有させていただきました。メイン講演は、日本包装管理士会 東北支部長の鈴木雅彦氏（株式会社東北ウエノ社長）に登壇いただき、「包装管理士が包装で改善する2024年問題」をテーマにご講演いただきました。鈴木氏は、2024年問題の課題とその改善策を具体的な事例とともに解説し、業界の現状と将来について理解を深めていただける内容となりました。



古平会長



鈴木講師

日本包装管理士会 会長 古平 篤（25期）挨拶 「包装管理士講座第59期合格者の皆さまへ」

皆さま、この度は包装管理士講座の合格、そして包装管理士資格の取得、誠におめでとうございます。日本包装管理士会会長、古平篤でございます。

皆さまは、上司や同僚の推薦、あるいはご自身の意思でこの講座に挑戦され、多くの学びと貴重な経験を積まれたことと存じます。6月にロワジールホテル豊橋での集合研修から始まり、専門的な講義、グループワーク、そして論文や試験と続く過程で、知識を深めるだけでなく、多くの仲間と交流を深められたことでしょう。

日本包装管理士会は創立50年以上の歴史を誇り、全国に広がるネットワークを通じて、包装管理士としての学びと活動の場を提供し続けています。皆さまには、このネットワークを最大限に活用し、資格を活かして包装業界に貢献していただきたいと願っております。

また、私ども日本包装管理士会では、包装界の国内最大展示会である「TOKYO PACK」にて展示ブースを設け、10大ニュースを通じた業界の動向や協会の取り組みを発信しております。さらに、機関紙「ipp news」を年2回発行し、会の活動報告や情報共有の機会を設けています。各支部においては「セミナー」「工場見学会」「包装研究会」などの活動が予定されており、皆さまが新たな知識を得て自己研鑽を続けられる場を整えております。合格された皆様におかれましては、2025年4月末までは仮入会期間として、ぜひさまざまな行事に参加していただき、会の活動に触れていただければと思います。

皆さまが新たな包装管理士として、ご自身の名刺にその称号を加え、業界内外での活躍を心よりお祈り申し上げます。どうかこれからも共に学び、成長し続けて参りましょう。

2024年度 IPP再構築委員会

2024年度 IPP再構築委員会 中間報告

IPP再構築委員会委員長 道明 誠（23期）

日本包装管理士会では、さまざまな課題に対応するため、2023年度より再構築委員会を設置し議論を進めております。再構築委員会の協議も2年目を迎え、2024年度における委員会での協議してきた内容について、中間報告を申し上げます。

報告に先立ち、古平会長より改めて当委員会の課題と目的について挨拶文を頂戴しましたので、この場をお借りしてご紹介させていただきます。

IPP全会員の皆様へ

日本包装管理士会 会長の古平 篤でございます。
当会は近年、会員数減少という重要課題に直面しております。この問題を真正面から向き合い、IPPのさらなる発展と持続可能な未来を築くために、再構築委員会の活動は、「会員増強」を最優先課題として取り組んでまいります。その具体的な目的（目標）は、一も二もなく「会員減少を食い止めること」に他なりません。引き続き、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

以下に、私から当会の発展に向けた具体的な指針を示します。

1.若い世代への訴求力向上

若い世代が参加しやすい企画や活動を展開し、新たな会員層を迎え入れます。

2.会員同士のネットワーク拡大

イベントや交流の場を通じて、会員間の結束を強め、相互支援を促進します。

3.地域に密着した活動の推進

地元企業や人材との交流を深め、会員同士のつながりを強化します。

4.現会員サービスの充実

会員のニーズを的確に把握し、魅力的で価値ある活動の提供を目指します。

再構築委員会の活動を通じてこれらを着実に実行し、困難な課題である「会員増強」を全会員の皆様と共に克服していきましょう。IPPのさらなる発展に向け、引き続き温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日本包装管理士会
会長 古平 篤
2024年12月吉日

2024年度第3回委員会（10月31日開催）では、特に支部制度の再検討が最重要なテーマとして取り上げられました。本報告では、支部制度の歴史的背景を振り返りつつ、現在委員会で議論されている方向性についてご報告いたします。

支部制度の成り立ちと役割

第3回委員会では、支部制度導入の経緯とその本来の役割を整理しました。当会設立当初、支部制度は存在せず、全国一元的な活動を行ってまいりました。支部制度が誕生した時期は会員数の増加や地域固有の課題に対応する必要性が高まり、地域ごとの活動を活性化させる仕組みとして「支部設立申請制度」が導入されました。

支部制度申出制 導入の歴史

支部設定およびその運営規定 (4号規定) 2008/4/17

第1条(申出) 新らしく当会所属の支部を設立しようとする場合、その新設予定支部が従来所属している支部長を経て、その旨を当会事務局に申し出をし、当会長、支部長、事務局、理事会の指定する者より指導を受けるものとする。これらを指導役員と称す。

第2条(リーダーへの指導) 前条の支部長(以下支部長という)は、新たに支部を設立しようとする地域において、当会の定款にあるその目的に理解を持ち結成の中心となるリーダーを指導し、地域の諸団体の協力を得て、支部設立準備委員会の結成に助力する。

(以上は4号規定の抜粋です。)

当時の支部制度の目的として以下の3点が考えられました。

1. 地域活動の活性化

地域特有の課題に取り組み、会員が地元で学び、交流する場を提供すること。

2. 会員間の絆形成

地域ごとの自主的な活動を通じて、会員同士がつながりを深めること。

3. 業界への貢献

地域で培われた知見を包装業界全体の発展に活かし、業界全体の底上げに寄与すること。

このように、支部制度は地域活動を支える重要な枠組みとして機能してきました。

時代の変化と支部制度の課題

委員会での議論を通じて、以下の課題が浮き彫りとなりました。

1. 会員数の減少と活動停滞

会員数減少や役員の高齢化により、一部支部では活動が縮小し、存続が危ぶまれる状況にあります。

2. 予算配分について

現在は支部所属人数に基づき予算を配分していますが、この仕組みが全国規模の効率的な運営を妨げている可能性が指摘されました。委員会では、予算配分を地域イベントの実施状況に基づく形へ変更する案が示され、出席委員の全会一致で方向性が固まりました。今後、各委員が支部に戻り、支部役員の確認を進めることが決定しました。

3. オンライン化への対応

デジタル技術の普及により、地域を越えた情報共有やリモート会議が容易になり、従来の地域限定型活動に加え、全国規模での柔軟な活動が可能となりました。

支部設立認可証

〇〇支部設立準備委員会殿

貴準備委員会を日本包装管理士会
〇〇支部として設立を許可します。

平成〇〇年〇〇月〇〇日
日本包装管理士会
会長 OAAA

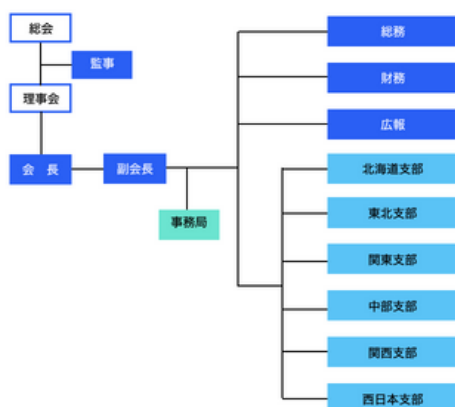
目指す姿

地域同士の連絡会を設置し、会全体で協力し合うことで、持続可能な運営の実現。全国の会員が地域に縛られることなく活動に参加し、活動の意義と価値を実感できる体制を目指します。

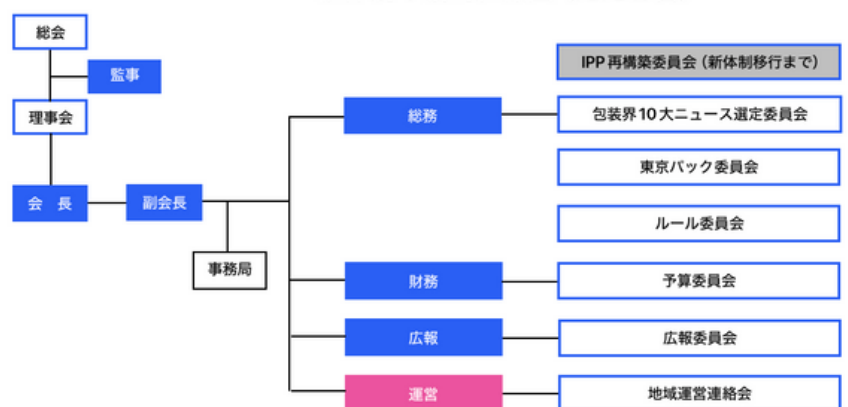
今後の進め方

10月31日の第3回委員会以降、各委員から組織イメージや運用体制の方向性に関する多くのアイデアが寄せられております。以下にその一部をご紹介します。これらのアイデアは、2025年1月以降の委員会でさらに協議を深める予定であり、現報告時点(2024年12月現在)では未決定であることを申し添えます。

現状の機構組織図

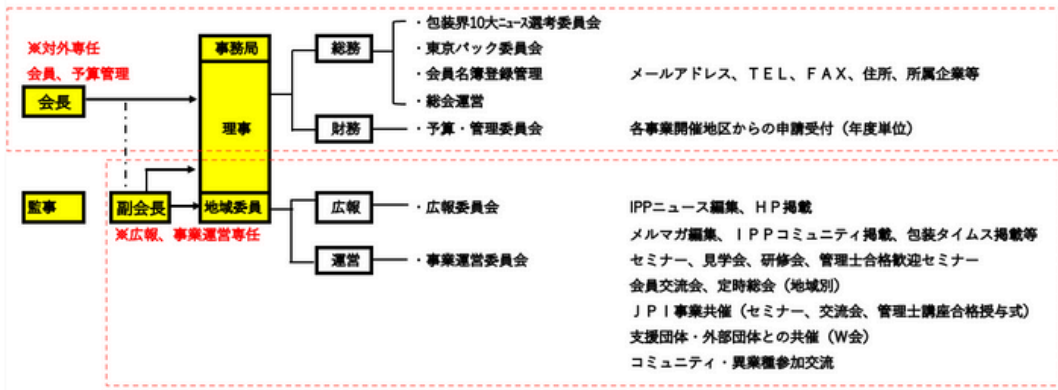


新体制の機構組織図(たたき台)

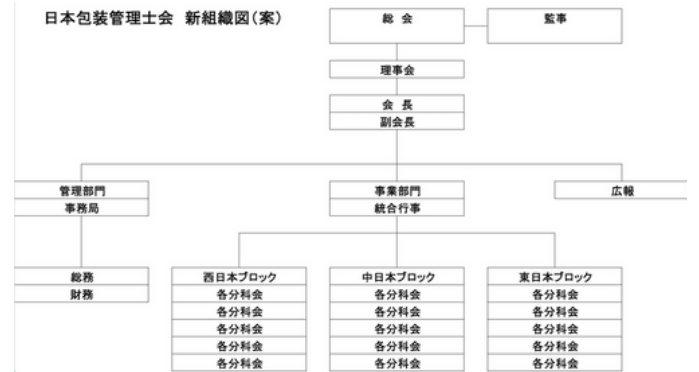
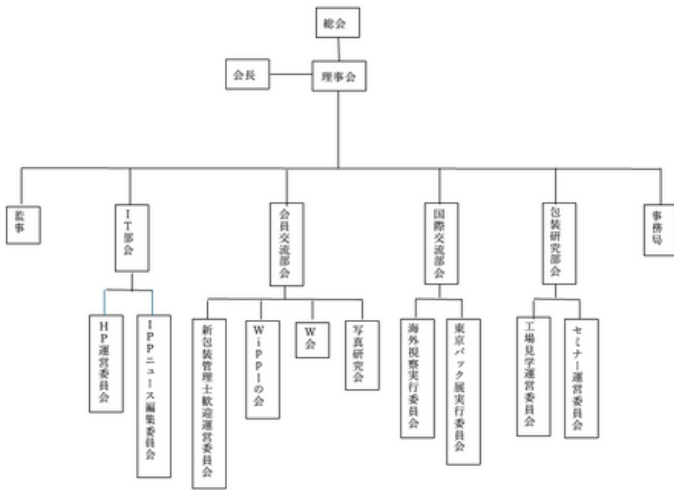


IPP再構築資料

新組織図(案) ※会長には会の運営と管理全般。副会長には主に広報・事業活動の責任者として職務を分担。



< IPP 新組織図案1 >



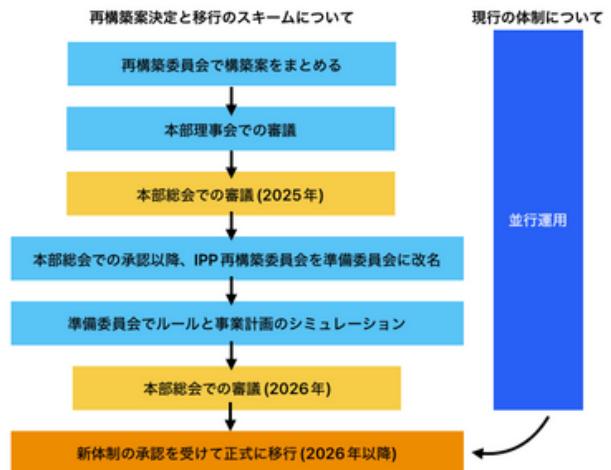
中間報告まとめ

再構築委員会では、支部制度の歴史的役割を尊重しながら、時代の変化に対応した組織づくりを討議しています。地域活動を支える仕組みを再編し、全国規模での一体感を高める新たな体制を目指しています。2024年12月現在、再編成方針案について各支部で検討が進められており、合意形成に向けた議論が続いています。本委員会では、各支部との連携を深めながら、具体的な方向性を確定するための協議を重ねてまいります。これにより、会員全員が活動の意義を実感できる環境を整え、持続可能な組織運営の実現を目指します。

なお、総会での上程提案は、今後の議論を通じて方向性が確定した場合に限られます。会員の皆様には、引き続きご意見を賜りながら、魅力ある事業運営の実現に向けたご協力をお願い申し上げます。



Google Formsを活用した事業計画・予算・実施報告の電子申請システムの導入を検討します



中部支部 だより

2024年度は、昨年度に引き続きJPI中部支部と連携して、オンライン形式での研究例会開催を中心としつつ、一部事業については対面形式での実施も取り入れて、会員各位への情報提供や研修フォローに対する多様なニーズに対応してまいります。

【JPIWEBフォーラム】

JPI中部支部と連携して「Zoom」を用いたウェビナー(最大定員500名)で実施されている「JPIWEBフォーラム」について、IPP中部支部では共同で開催しております。

11月6日(水)の「JPIWEBフォーラム」では、グンゼ株式会社プラスチックカンパニーの前原志保氏より『プラスチックゴミゼロへの挑戦(ゼロ・エミッション)』と題して、プラスチックゴミを出さずに自然エネルギーを活用するゼロ・エミッションを推進している同社の資源循環施策を中心に、環境配慮の視点から様々な取り組みについて、ご紹介いただきました。

12月4日(水)の「JPIWEBフォーラム」では、Jパックス株式会社の水谷嘉浩氏から『被災者の命を守る段ボールベッドのその後～能登半島地震の対応について～』として、深刻な自然災害が毎年のように発生し、避難所での生活を余儀なくされている人々の健康被害の原因となる雑魚寝の解消を目的として、導入が進められている「段ボールベッド」に関して、避難所環境改善へのこれまでの取り組みと避難所の標準化に向けた今後の課題等について、ご講演をいただきました。

【第59期包装管理士講座:合格証書授与式・交流懇親会】

11月8日(金)、「第59期包装管理士合格証書授与式」が行われました。名古屋会場では、今年度54名の新包装管理士が誕生し、優秀合格者として銀賞をダイナパック(株)の河合宏哉様が受賞されました。授与式には、IPP中部支部から北原圭介支部長が出席し、新包装管理士へ管理士会の活動を紹介するとともに入会の勧誘を行いました。また、続けて開催された交流懇親会では、同期の包装管理士との交流や講師・テクニカルサポーターの皆様との歓談で盛り上がる中、サプライズでIPP中部支部より恒例の「頑張ったで賞」の贈呈が行われ、YKK AP(株)の鶴間剛士様(輸送コース)と富士特殊紙業(株)の内藤猛様(生活者コース)が受賞されました。この賞は、合格を手にするために協力いただいた同僚や家族の方へ感謝の気持ちとして渡せるお菓子となっています。



東北支部 だより

東北支部 支部長
鈴木 雅彦（38期）



明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

本日は、東北支部から新年のご挨拶と昨年度の活動報告、さらには今年予定されている行事についてお知らせいたします。昨年の年頭のご挨拶では、「物流改革の年が始まり、包装仕様が重要な要素となる」と申し上げましたが、皆様の一年はいかがだったでしょうか。トラックGメン活動などにより荷主の責任が注目され、包装仕様の見直しが着実に進んでいることを実感しております。今年も包装管理士がその力を発揮する一年になることを確信しています。

さて、昨年11月8日（金）、仙台の江陽グランドホテルにて「2024年東北支部包装技術研究発表大会」と「第59期包装管理士講座合格証書授与式」を開催いたしました。

東北包装技術研究発表大会

大会では、包装管理士に合格された4名の皆様に研究発表を行っていただきました。わかりやすく整理された内容や、丁寧なプレゼンテーションにより、活発な質疑応答が展開されました。全日本包装技術研究大会に匹敵する充実した内容で、参加者にとって非常に有意義な機会となりました。

仙台会場 合格証書授与式

続いて行われた「第59期包装管理士講座合格証書授与式」では、仙台会場から優秀合格者銅賞が1名選ばれ、日本包装技術協会の小籠常務理事より合格証書と銅賞が授与されました。式後には、「新包装管理士を囲む会」として交流会を開催し、受講者同士が顔を合わせ、今後の連携や活躍を期待できる場となりました。



東北支部の今後の予定

東北支部では、以下の行事を計画しています。
多くの会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

12月16日 Webセミナー

「3GeV高輝度放射光施設NanoTerasuの概要」
1月30日開催予定の見学会に向けた予備知識を学ぶセミナーです。

1月22日 東北包装界新年名刺交換会

15時開始、お年玉抽選会あり。新しい出会いを創出する交流の場です。
特別講演には若いスタートアップ企業の代表をお願いしています。

1月30日 『3GeV高輝度放射光施設NanoTerasu』見学会

仙台に新設されたこの最先端施設では、放射光を利用して物質表面の性質を調査できます。新製品開発や製造工程の見直しに役立つ貴重な機会です。

さらに、2025年12月18日～19日には仙台国際センター展示棟にて「全日本包装技術研究大会」が開催されます。この大会は、東北支部設立40期を記念する特別なイベントでもあります。同時に、第60期包装管理士が誕生します。この機会に、包装管理士会のオフ会も企画したいと考えておりますので、ぜひ多くの皆様にお集まりいただければ幸いです。

終わりに

ロジスティクスの中で包装が果たす役割はますます重要性を増しています。包装管理士のネットワークを最大限に活用し、日本企業の発展に貢献できる一年になることを願っています。これからも若い力と経験豊かなメンバーが力を合わせ、活躍できる場を広げていきたいと思っております。

以上、東北支部からの報告とさせていただきます。

西日本支部 だより

西日本支部 副支部長
末松洋亮（25期）

西日本支部は、研究会、講演会などを主体とした活動を進めています。また、関西支部ともWEBセミナー情報の共有などを行いました。コロナ禍前と同様の活動は難しい状況ではありますが、より充実した事業企画とするため、JPI西日本支部殿と連携し取り組んでいます。

◆第59期 包装管理士合格者

当支部では28名（生活者コース15名、輸送コース13名）の包装管理士が誕生しました。合格された皆さん、おめでとうございます。また、合格者の中で5名が管理士会へ仮入会されました。2025年度は正規に入会されるよう希望しています。

包装事例研究発表会、合格証書授与式及び懇親会

- ・日程及び会場：2024年10月30日 西鉄イン福岡 Aホール
- ・講演者：第59期包装管理士受講者（5名）が
包装改善の取り組みを発表
- ・参加者：関係者を含め32名

◆今後の活動予定

JPI西日本支部殿との共催事業として、WEBフォーラム講演（来年2月に講師は三菱商事パッケージング株式会社 商品本部パッケージング・テクニカル・スペシャリスト 佐藤久朗氏）等を予定しています。なお、今後の状況により、開催内容等を変更することがあります。

関西支部 だより

木野元朝幸（36期）

関西支部では引き続きIPP再構築の動きを受け、会員の皆様にメリットを感じてもらえる様に工夫を重ねています。新たにテクニカルセミナーの開催、好評いただいている工場見学会&セミナーの増加などの取り組みをしています。

また、他支部や他団体との交流を図り、情報発信の拡大や会員の技術研鑽に取り組みます。

1、活動報告

◆第53回ミニセミナー

2024年9月19日 16:00~18:00

大阪市立総合生涯学習センター

①「脱炭素・BCPに対する取り組み事例」

栗原工業(株) 川田隆之様

中山友希様

②「Ergo Packを用いた作業改善の方法」

堀富商工(株) 黒木祥彦様

是兼俊也様



セミナー後の交流会



川田講師



黒木講師

栗原工業(株)は電気設備工事を主体とした総合設備工事会社で、電気設備・空調設備の脱炭素に対する取り組み事例、太陽光発電設備の導入事例、食品工場の照明器具の紹介および栗原工業100周年記念事業の一環で建設した本社ビルのBCPについて説明いただいた。本社ビルは令和元年度 おおさか環境にやさしい建築賞（事務所部門賞）を受賞している。

堀富商工(株)黒木様より、多くの作業場で手作業にてしているパレットに積まれた製品のPPバンド掛け作業について、作業者の負担軽減や包装品質の安定化、荷崩れ防止などの安全性向上、作業時間軽減、働き方改革に貢献できるドイツ製半自動PPバンド結束機「Ergo Pack」について説明いただいた。



エルゴパック

両テーマとも参加者から活発な質問が飛び交い、有意義なセミナーとなりました。



古井講師

◆テクニカルミニセミナー

2024年10月17日 15:40~18:00

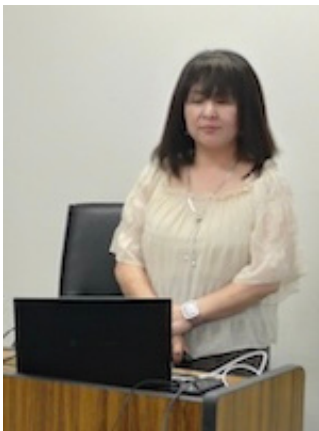
大阪市立総合生涯学習センター

- ①「環境問題対応の包装設計の在り方（発泡スチロールの場合）」
包装管理士会関西支部 古井真夫様
- ②「防湿・防錆包装講座」
日本化工機材㈱ 高橋裕美

従来のミニセミナーより本格的に詳しく包装技術を学ぶため、テクニカルセミナーを開催した。特に「防湿・防錆包装講座」は時間を80分とし、専門分野を分かり易く講演いただいた。

古井様から家電設計の包装設計に基本的な考え方、重要要素、目的および手順を紹介いただいた。緩衝材の選定、仕様の設定に向けての計算式の提示、試作作成から物流条件を想定した各種評価試験の説明、各包装材料の特性および保護性を追求した結果を一覧表で提示いただいた。また発泡スチロールの環境対応についても説明いただいた。

高橋様からは飽和水蒸気量や結露、乾燥剤の分類など、防湿包装に必要な基礎知識から、JISに基づいた製品規格や乾燥剤の使用量の計算方法について解説いただいた。防錆についても基礎知識から防錆包装の応用、自社製品である防錆剤と乾燥剤の長所を集約したハイブリット防錆乾燥剤「VS-PACK」について紹介いただいた。



高橋講師



セミナー後の交流会



祝辞 IPP入会案内（支部長 桃川）



銀賞受賞者 小西美歌氏



銀賞&KPI賞を受賞された方々
左より 熊谷氏、松尾氏、小西氏（銀賞）、
吉川氏、藤森氏

◆包装管理士講座 合格証書授与式

2024年10月29日 16:30~18:30
ハートンホテル北梅田

第59期包装管理士講座 大阪会場での合格証書授与式に来賓としてIPP支部運営委員4名が参加。

生活者包装コース53名、輸送包装コース15名が合格されました。大阪会場では成績優秀者・銀賞をレンゴー㈱の小西美歌氏が受賞されました。加えて大阪会場での優秀者「KPI賞」を4名が受賞されました。



第59期生



人と防災未来センター

◆見学会&セミナー

2024年11月14日 12:45~17:00

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

- ①人と未来防災センター見学
- ②「能登半島地震からまもなく1年、
南海トラフ地震にいかに備えるか」
(公社)ひょうご震災記念21世紀機構 行司高博様
- ③「避難所におけるTKBの重要性について
～災害関連死を防ぐキーワード～」
TKB: トイレ・キッチン・バス
Jパックス㈱代表取締役 水谷嘉浩様



見学風景

①人と防災未来センター見学

東西に分かれており、最初に西館にて1995年1月17日5時46分に発生した阪神・淡路大震災の発生状況を再現したシアターや震災からの復興を記録したシアターを視聴した後、震災に関する様々な展示を見学した。特に震災直後の悲惨さや少しずつ復興する姿を見ると、非常に胸が詰まる思いであった。また非常食に関する展示もあり参考になった。

その後東館に移動し、地震発生のメカニズムなどをシアターや体験型設備で学ぶことができた。

特に近い将来発生する南海トラフ地震や2011年に発生した東日本大震災発生のメカニズムを分かりやすく理解することができた。九州東部から四国、紀伊半島、東海～関東南部にかけての太平洋沖にあるプレートに歪が溜まっており、100年以内に地震が発生し関連して富士山の噴火もあることが理解できた。宮城県沖のプレートは2011年3月に東日本大震災が発生したため、プレートの歪はなくなっており次の震災は400～500年後になると理解できた。

災害に直面した際にどのような行動をとるべきかクイズ形式で学ぶことができるコーナーもあり、外出中に市街地で震災に遭った際は、道路の真ん中で待機する、家庭で調理中に震災に遭った際は火を消さず先ず避難することが分かった。最近の調理器具は一定以上の温度になると自動で消えるとのこと。

災害の恐怖や復興する過程、災害は自然の営みと人の営みがある限り発生し災害とともに生きていかねばならないことを強く感じる事ができた。その上で災害について理解し、備えておくことの必要性を十分理解することができた。



集合写真

②セミナー

「能登半島地震からまもなく1年、南海トラフ地震にいかにかに備えるか」



行司講師

行司様からは2024年1月に発生した能登半島地震被災地での支援活動の体験や、体験に基づき今後発生が予想される南海トラフ地震にどう備えるのかを中心に講演いただいた。

町役場に職員がいない、電気・水やトイレが使えない、物資も運べないなど混乱の中、1月7日から各地に応援が来た。カウンターパート支援により、総括支援県のもと支援団体が支援を行う体制である。能登町の場合、総括支援県：滋賀県、支援団体：茨城県、宮城県、和歌山県など。総括支援県より支援団体の方が規模が大きい場合（例：総括支援県：三重県、支援団体：東京都、大阪府など）、総括支援県を飛び越えて支援団体に情報が流れることもあり、支援組織の情報の一本化などに配慮したとのこと。避難所に段ボールベッドが搬入されたが段ボールメーカー毎に規格・寸法が異なる、指揮者がいないと展開が難しいなどの問題点があった。ただ能登町は運送会社や段ボールメーカーと防災協定を締結しており、物資の配送や段ボールベッドの展開が迅速に行われた。また「X」や「Line」を通じて復旧状況の情報を配信し、被災者が避難先から戻ってくる目安にもなったとのこと。南海トラフ地震に備え、行政では「防災」と「減災」に取り組み、家庭内でも「どこにどうやって逃げるのか?」、「どうやって連絡をとるのか?」話し合い、最低3日・できれば1週間分の水と食料、「簡易トイレ」を用意すべきとのことであった。

③セミナー

「避難所におけるTKBの重要性について

～災害関連死を防ぐキーワード～



水谷講師

水谷様からは2011年東日本大震災以降の段ボール製ベッド「暖段はこベッド」展開を始めとした災害関連死ゼロへの取り組みについて講演いただいた。

災害時の避難所では床にブルーシートを敷きその上に布団を敷いて避難生活を行うが、雑魚寝によりストレスによる血圧上昇なども加わりエコノミー症候群が生じる。特に避難所は同じ姿勢を長時間とる、脱水、ストレス・怪我が揃い発生しやすい。

避難所でのエコノミー症候群などによる災害関連死は平成の間4,958人もいる。これは1つの大災害に匹敵し、避難して助かったせっかくの命が失われることになる。それを防ぐためには段ボールベッドが有効である。2011年の東日本大震災以降、段ボールベッドの供給を行い、2012年に防災基本計画に簡易ベッドが記載され、2013年に公正取引委員会より独禁法適用除外の勧告を受け、段ボールベッドが普及し始めた。

海外では戦前からベッドが設置されており、イタリアでは家庭ごとにテントが設営され、トイレやベッドがあり、食事も避難食ではなく通常の食事が提供される。日本は市町村が避難所を開設するが、イタリアでは自治体職員が避難所運営を行わず全国で標準化されており、自治体毎の格差はないとのこと。

日本は避難所では雑魚寝であるが、弥生時代から見てみると床を高くしており、決して雑魚寝の文化ではない。

2020年の熊本人吉水害では熊本県の要請から48時間以内に段ボールベッドを届け、段ボールベッドを計画的に並べて避難所設営を指導した。北海道では8時間以内に段ボールベッドを供給できた。能登半島地震でも、能登町と防災協定を締結している段ボールメーカーが迅速に段ボールベッドを供給し、ベッドの組立までも指導してくれた。

能登町の良い事例もあるが、日本は「逐次投入」支援であり対応が遅れる割には費用が掛かっている。海外では「一気呵成」で導入しており、台湾では「電光石火」の対応が見られた。支援が遅れると被災者が「絶望」し、復旧が進まなくなる。災害が敵ではなく「絶望」が敵になる。

そのためにはベッドに加え、トイレ・シャワーによる衛生、キッチンによる栄養、ベッドによる睡眠を避難所で確保し、被災者が「絶望」しない取り組みが必要である。

最後に避難所環境を向上させ災害関連死を防ぐためには民間も含めてオールジャパンでの取り組み、外部専門家の活用も必要とのこと。準備が全てであり、平時にできないことは有事にはできない。

「たった1人の犠牲者も出さない」強い決意が必要。



交流会



案内文

◆関西支部主催 第59期生合格記念ツアー

2024年12月7日 9:30～

国崎クリーンセンター啓発施設

「ゆめほたる」

兵庫県川西市国崎字小路13番地

能勢電鉄山下駅集合

兵庫県川西市・猪名川町、大阪府豊能町・能勢町の1市3町（人口約22万人）のゴミ処分施設である国崎クリーンセンターの啓発施設「ゆめほたる」見学会を、第59期包装管理士合格記念ツアーとして実施しました。

試験的に土曜日に開催し、仕事の調整なしで参加できるように試みました。



ガイドの説明

第59期包装管理士合格者2名、合格者の紹介者2名、IPP関西支部からの参加者7名、合計11名でツアーを開催しました。

「ゆめほたる」では、ゴミの分別、焼却、発電、また焼却後の灰を溶融し道路のアスファルト材料とする設備を見学しました。ただし、溶融に関しては二酸化炭素排出が多いため、設備は休止予定とのことでした。

ゴミの処分だけでなく、プラスチックや紙ごみのリサイクル啓発や企業とのコラボレーションによる取り組み、育児用品のリユース活動も行われており、排出されたゴミの分別やその後の活用方法について理解を深めることができました。特に、スチール缶が鉄道の線路などに再利用されていることには驚きました。また、紙ごみについては香水や線香、石鹸、洗剤などの匂いが付いたものはリサイクルが不可であることも知りました。

私たちが仕事で取り扱う包装資材が最終的にどのようなようになるのかを理解する非常に有意義な機会となりました。



集合写真

3、関西支部の今後の予定

皆様方の御参加 お待ちしております。

1) 見学会&セミナー（24年度2回目）

2025年2月28日（金）

セツカートン(株)伊丹工場

*段ボール工場の見学です。



セツカートン(株)伊丹工場

2) 第54回ミニセミナー

2025年3月24日（月）16:00～

大阪市立総合生涯学習センター

- ・「プリントメディア産業におけるこれからの市場が求める変化を探る」
- ・「プラスチック成型技術と脱プラの取り組み」

北海道支部 だより

北海道支部長
會田慶太（47期）



新年あけましておめでとうございます。

管理士会会員の皆様におかれましては如何お過ごしだったでしょうか。昨年を振り返ると、2024年の干支は「甲辰」でした。甲辰の意味には、成功という芽が成長していき、姿を整えていく」といった縁起のよさを表している一方で、陽の気が動いて万物が振動する。つまり、「変革（転機）」や「激動」が起こるとされ、時代が動く年であると言われております。

元旦の午後に石川・能登で震度7の大地震が発生、甚大な被害となりました。多数の犠牲者が発生し、今もなお多くの方々の生活に大きな影響が出ております。一日も早い復興をお祈りいたします。翌2日、羽田空港にて、旅客機と海上保安庁機が衝突、5名の尊い命がなくなりました。年明け間もなく、このような悲しい出来事が発生してしまい、一体どんな年になるのかと不安に思った事と思います。以降も様々な事が起きましたが、メジャーリーガー大谷翔平選手が史上初の50本塁打/50盗塁を達成、MVPに選ばれ、多くの人々に夢や希望を与えていただきました。政治にも変革が起き、まさしく、2024年は甲辰が表した年であったと感じます。

さて、我々北海道支部について少し報告をさせていただきます。昨年の支部活動として、合同親睦会については諸般の事情により開催を見送りとしましたが、1月に賀詞交歓会、11月に第59期包装管理士合格証書授与式及びその後の懇親会を開催いたしました。両行事ともお互いの親睦を深めることができ、有意義な会になったかと思っております。特にフレッシュな包装管理士の皆様とお会いできたことで、改めて活動の輪を広げていきたいと思った次第です。

もう一つ。北海道全体についても報告をさせていただきます。2024年日本列島はまたも猛暑に見舞われましたが、北海道は比較的過ごし易い気候であったかと思えます。2023年に猛暑の影響を受けた農産物も回復の兆しがあり、また、気候との関係性は明らかにされておりませんが、ここ数年不漁であった、秋の味覚「秋刀魚」の水揚げが倍になるなど、少しだけいつもの北海道に戻ってくれたと感じとれる年になりました。我が日本ハムファイターズもリーグ2位と急浮上をしてくれ大いに盛り上がりました。国を挙げての事業「ラピダス」の工事も順調に進んでおり、建設されている千歳市及びその周辺は活気に満ち溢れています。コロナ後のインバウンドの回復についても、観光地は外国人観光客が多数おり、明るいニュースが多かった様に感じます。一方で人出不足等の問題が顕著になっており、今後の人口減がもたらす影響を真剣に考える時が来たと感じる年でもありました。

2025年の干支は乙巳（きのとみ）です。脱皮をする蛇のイメージから巳年は「復活と再生」を意味する様です。良い一年になることを祈念して、年始のご挨拶とさせていただきます。

2024年12月

関東支部 だより



第59期 包装管理士「東京会場合格証書授与式」に参加

野崎浩子（38期）

第59期包装管理士「東京会場証書授与式」が2024年10月18日 金曜日 15時～17時までAP日本橋で開催され、本部から井上伸也氏、古平篤氏、関東支部から野崎が参加しました。15時から開始され、JPI 園山専務理事が挨拶をされ、来賓、主催者の紹介、合格者氏名の報告が進み、合格証書授与が行われました。その後、優秀合格者表彰が行われ、日本包装管理士会会長の古平篤氏が挨拶を行いました。挨拶では、今までの受講講座がいろいろと大変であったことを振り返り、また、これからは名刺に「包装管理士」と記載できることを説明し、名刺に59期と期番を入れてほしいとお願いしました。また、包装管理士会はお試し会員として来年の4月までは会費が無料で、いろいろな行事があり、セミナー、企業見学会、忘年会、ippニュース（機関紙）、ホームページ、また、女性の会“Wippi”の会などがあるので、積極的に参加して下さいと述べました。

その後、受講生代表による謝辞があり、部屋を移して合格者懇親会が16時～17時まで行われました。乾杯の挨拶を関東支部・理事の野崎浩子が行いました。その内容は次の通りです。

「包装管理士講座の受講、数カ月間お疲れ様でした。そして、包装管理士合格、おめでとうございます。一緒に合格した仲間が集まる機会もあまりないと思いますので、ぜひ今日は交流して知り合いを増やしていきましょう。後ほど皆さんのところを回りますので、私も名刺交換をお願いします。」

多くの方々と懇親や名刺交換を行い、定刻の17時に終了しました。



“Wippi”、東京PACKでランチ会を開催

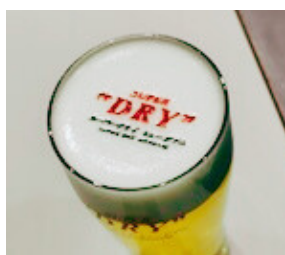
野崎浩子（38期）

“Wippi”（包装管理士、包装・物流業務に従事する女性で構成されるコミュニティ）にて、東京PACK開催中にランチ会を行いました。関西のW会のメンバーの方も参加いただき、参加人数は12名となりました。仕事や子育てなど色々なお話ができ、楽しい時間を過ごすことができました。“Wippi”は現在約30名の方に登録いただいています。コロナにより中止になってしまった企画など、今後は再開できるよう、また、その他、皆様と交流できるような企画を計画していきたいと思っていますので、ぜひ参加いただければと思います。また、企画運営をお手伝いしてくれる方がいましたら、ぜひ、ご連絡をお願いします。

関東支部見学会を開催

アサヒビールスーパードライミュージアム工場見学会

田村正幸（27期）



関東支部主催の見学会として、12月4日（水）アサヒビールスーパードライミュージアムを見学しました。同施設は2023年にリニューアルされたばかりの施設です。日本人に馴染み深いスーパードライが、どんな歴史をたどってきたのか、どんな風に造られているのか、そんな魅力やブランドの世界観を五感で体感できる体験型施設です。



施設内ではビールの酵母になった感じで映像と光による演出を、製品の立場になった気分で充填、製品梱包の生産ラインに乗った映像や体感しながら見てまわりました。見学後は地上7階にある併設された工場できたてのスーパードライを楽しめるコーナーで「エクストラコールド」もいただきました。自分でビールをサービングできる体験や、泡プリンターを使って、オリジナルロゴを泡に乗せる体験ができたりして充実した見学となりました。

その後の情報交換会では今回初参加の方も交えて包装管理士会を大いに盛り上げていく活発な意見をいただきました。

IPP写真研究会 ジョンソンタウン撮影会

笹木 憲一（18期）



2024年9月15日に埼玉県入間市でIPP写真研究会の撮影会が開催されました。今回は会員4人とゲスト1人の合計5人が参加し、市内の愛宕神社、愛宕公園、ジョンソントウンの3か所を撮影しました。愛宕公園は真ん中に池がある日本式公園で、ジョンソントウンは米軍基地時代のハウスとそれを模した建物がアメリカのような街並みを作り出していました。

晴天に恵まれましたが、非常に暑く、休憩を取りながらの撮影会となりました。また、各人が自由に撮影活動することができました。撮影会終了後は、11月開催の写真展に向けたスケジュールや役割等の打ち合わせを行いました。



第19回楽しい写真展の報告

IPP写真研究会会長 荒牧 哲（23期）

横浜の観光名所の洋館で例年通り開催しました。今年はTokyo Packの10月を避け、場所取り抽選に11月分から参加し、めでたく11月を引き当てました。天気は会期の4日間を通じて 曇り又は曇り一時雨で、残念ながらすっきりしませんでした。幸いにも昨年を上回る来場者がありました。

会場 横浜市 山手234番館 2階ギャラリー
会期 11月15日(金)午後1時から11月18日(月)午後3時まで
入場者数 449名 (2023年10月開催で402名入場)



作品展示



飾り付けメンバー
 後列左より 笹木、大野、荒牧、道明
 前列左より 住本、福野

作品作りは、顧問の写真家による添削指導を8月末から受けて進めました。展示作品に未展示の作品も加えて編集した小冊子、通算4冊目を作りました。横浜山手までお出でいただいた支部の皆様へ深く感謝いたします。



4冊目となる小冊子「FINDER 2024年秋季号」

荒牧 哲
 古平 篤
 五十嵐 誠
 大野 登
 木下 恵夫
 笹木 憲一
 住本 充弘
 福野 壽史
 道明 誠
 吉浦 慶一

IPP 写真研究会
第19回 楽しい写真展
 横浜 山手234番館ギャラリー
 R8.11.15(金)～18(月) 9:30～17:00
 初日 13:00より、最終日 15:00まで。

写真展案内はがき



包装管理士会 納涼祭 交流会を開催

大野 豊 (38期)

2024年9月27日(金)に、包装管理士会関東支部主催の「納涼祭 交流会」が恵比壽ビヤホールで盛大に開催されました。今回の交流会は、幅広い世代の会員が参加し、とくに若い世代との交流を深めることを目的として行われました。

参加者は、美味しい料理と共にリラックスした雰囲気の中で会話が弾みました。世代を超えた意見交換や経験談の共有が活発に行われ、若手メンバーからは「先輩方から多くを学べた」といった声が寄せられました。一方、ベテラン会員からは「若い人たちの新鮮な考えに触れられた」と好評でした。

今回の交流会は、世代を超えたつながりを築く良い機会となり、会員同士の結束が一段と深まりました。包装管理士会関東支部では今後もこのような機会を積極的に設けていく予定です。

IPPコミュニ亭

BBQ報告 (実施日：2024年10月13日、日曜日)

福野 壽史 (16期)

コミュニ亭の活動として朝倉関東支部理事が会長を務める「板橋稲門会」のバーベキューに今年も参加しました。IPP関東支部では、以前から朝倉理事が年に2回ほど開催しているBBQにイベントコラボとして参加させていただいています。

この会への参加は、IPPとして5年程になるのでしょうか。今年の参加者は総勢45名、内IPP関東支部からは3名の参加でした。会場の最寄り駅は、都営三田線の志村三丁目駅で「サンシティBBQ広場」の設備の整ったスペースで行われました。

筆者は2度目の参加になりますが、昨年度に顔を合わせた方々と意気投合できる場面もあり「継続は力なり」を大いに感じることができました。次回は、さらに多くのIPP会員の参加を望みます。



関東支部 忘年会を開催

古平 篤（25期）

関東支部の忘年会は2024年12月5日18時30分～20時30分まで、東京千代田区丸の内にある、十割蕎麦酒場「ちゃぼうず 大手町」で開催され、10名が参加しました。蕎麦や河豚を使用した料理を食べながら、参加者全員が今年の思い出や来年に向けての抱負、近況を語り合いました。



つつむ君から の手紙



「ippニュース」に関するお知らせ

日本包装管理士会の会報「ippニュース」は、年2回発行しています。昨年度まで夏号は電子発行、冬号は印刷を行い郵送していましたが、今年度は緊縮財政から、夏号・冬号とも電子発行（PDFをホームページに掲載）となりました。紙媒体を楽しみにされていた皆様には誠に申し訳ありません。カラーで見やすい紙面や充実した内容を心がけていきますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。

WEB展開に伴い、メールによるお知らせが不可欠です。事務局にメールが戻るケースが発生しているため、設定確認をお願いいたします。届かない場合は、事務局（ipp@pk9.so-net.ne.jp）までご連絡ください。

編集後記



昨年は地震等の自然災害があり、日本を取り巻く環境の厳しさが感じられた年でもあったと思う。だが一方で明るいニュースもあった。例えばサッカー日本代表チームであるが、代表選手の多くは、所属している欧米のクラブチームにおいて“個”の力の点で他国選手に負けていない。またチーム勝利の為にあれば、瞬時に“全体の一部”として、機能的な“役割”に徹しきれる。この“個”と“全体での役割”の有機的な結合と分散が、最適な状況判断の元に繰り返される事で、代表戦の勝利を手繰り寄せている様に思える。勿論、選手達の成長には支える人達の存在があった事は想像に難くない。

包装業界では、毎年新しい原石である包装管理士が誕生している。管理士会では、若い“個”の才能の開花の為に寄り添い、かつ既に“個”を研磨してきた数多くの会員達と若い“個”に対して、出会いと研鑽の場を提供し続けたいと思っている。そしてこれら多様な“個”を持つ会員達が有機的に集合・協働し、今後の日本の包装業界全体も勝利に向けて発展する事を願ってやまない。今年も宜しくお願ひ申し上げます。
(ippニュース編集委員会の委員執筆)

日本包装管理士会 /Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp
<https://www.ippj.net/>

■本部	〒 104-0045	東京都中央区築地4-1-1-東劇ビル10F 日本包装技術協会内	TEL : 03-3543-9250 FAX : 03-3543-8970
■北海道支部	〒 060-0001	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内/日本包装技術協会・北海道支部内	TEL : 011-241-8591 FAX : 011-241-3898
■東北支部	〒 021-0893	岩手県一関市地主町 3-35 株式会社東北ウエノ内	TEL : 0191-21-4531 FAX : 0191-21-5381
■関東支部	〒 115-0051	東京都北区浮間1-7-17 ※古平 篤 関東支部長宅	ipp.kanto.pack.50@gmail.com
■中部支部	〒 460-0003	名古屋市中区錦3-5-21 錦HOTELビル 3D 日本包装技術協会内	TEL : 052-228-2930 FAX : 052-228-2980
■関西支部	〒 550-0014	大阪市西区北堀江1-1-27 イマイビル4階	携帯 : 090-4305-3906 (桃川) FAX : 06-6584-8986
■西日本支部	〒 849-0917	佐賀県佐賀市高木瀬町長瀬870-1 ※八田 彰 西日本支部 事務局長宅	携帯 : 090-4586-7509 tsubonoue2019@gmail.com

日本包装管理士会 会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 FAX: 03-3543-8970 ☎03-3543-9250

フリガナ	会員番号	番
氏名	届出日	令和 年 月 日
会社	社名 所属 住所 〒 TEL E-mail	FAX
自宅	住所 〒 TEL E-mail	FAX